

2026年度事業計画（案）

（2026年1月1日～12月31日）

法人名称 NPO 法人 教育支援グループ Ed.ベンチャー

1. 事業活動方針

昨年の年末から年始にかけて、世界では耳を疑うような出来事が繰り返され広がられた。それらはアメリカ（トランプ大統領）が中心となつての出来事が多い。ベネズエラへの侵攻と大統領の拘束、66の国際機関からの一方的脱退。挙句は「ドンロー主義」宣言、と続く。戦後構築されてきた国連を中心とした世界の枠組みや理念が、吹き飛びかねない状況に置かれた。こうした世界の動きを受けて、各国では今後の対応を模索中だ。

こうした報道に触れるたびに、やはり世界に戦争の足音が近寄りつつあるのではないかと、心配になる。ヨーロッパでは停止や縮小していた徴兵制を復活する動きが盛んだ。ドイツでは、18歳の男女に兵役の意思を問うとともに、男性には身体検査を義務づける法律が施行された。志願兵が不足すれば、議会の承認で徴兵制を再開するとのことだ。

こうした動きは今の子どもたちにとっても無縁ではない。子どもたちが大人になるときに、どのような社会を残してあげられるかは、現在の大人たちの責任だ。

こうした中で、教育に関わる者たちがやるべきことは何なのか、私たち一人ひとりが問われている。

昨年度の事業方針では、画一的な価値観の中に押し込められるのではなく、何を大切にしたいのかという「手作りの価値観」を確認しながらの、お互いを支え合うネットワークづくりを提唱した。

手作りの価値観とは言っても、そこには底流を流れる共通の大きな理念があるはずだ。すなわち、「自由・平等・平和」である。この「自由・平等・平和」は、人類の歴史の中で世界的に共有されているはずのものである。歴史の中で人類が獲得した価値観、と言っても過言ではない。しかし、いまそれが危ない。

であるならば、私たちが今年取り組むべきことは、学校教育にとらわれることなく、活動の様々な場面で、大人も子どもも、「自由・平等・平和」の大切さを確認し合うことではないだろうか。歴史が巻き戻されそうになっている今、「何が大事なのか」だけは常に確認しなければならないと考える。

経済の発展が私たちの幸福につながると信じてきた。しかし、経済の発展が行きつくところまで来てしまった現在では、少ないものを取り合う生き残りゲームが始まっているかに思える。強いもの、資金のある会社や個人だけが生き残る時代がやってきた。

「自由・平等・平和」がそうした中で脅かされているのである。経済の発展は必ずしも「幸せ」を呼ばないこともわかり始めている。

だからこそ、私たちは「お互いの幸せを守り合う社会をイメージできる力」を子どもたちに育てていかなければならないのだ。そのイメージは、私たちの中でもまだ漠然としているが、今取り組まなければならないことだけは確かだ。

より良い未来の社会を想定しながら、私たちは学び合い、語り合い、そして成長していきたいと考える。

2. 事業内容

学校支援事業 ①理論学習会

事業概要	<p>これまで、「捨てられない学校」に変わっていくために、学校だからこそできることは何かを探るため、参加者と議論を重ねてきた。学校現場は、今なお競争を重視する学力観や不登校児童生徒の増加など、様々な問題を抱えており、子どもたちが求める学校にはなっていない状況が続いている。今年度も引き続き、子どもたちにとって意味のある学校になるために、学校だからこそできることは何かを考えていく。</p> <p>今年度は、約100年前に展開された「大正自由教育」に着目し、そこではどのような教育が行われていたのかをもとに、次の点について考える。</p> <p>① 今の教育と比べて、その違いは何か。今の教育の問題点は何か。</p> <p>② 今、注目されている自由進度学習は自由教育といえるのか。</p> <p>③ 今の学校では、どのような実践が可能なのか。</p> <p>参加者と考え、議論することを通して、学校がもつ課題を整理し、改善に向けてどのようなことができるのかを探っていきたい。</p>
事業目標	<p>教育現場の状況を討論の中で分析し、客観視することで、今後の学校や教員のあり方を模索する。</p>
担当者	<p>●活動代表（理事）清水美希 柴田滯 村本綾 ○スタッフ 柿本隆夫</p>
開催日時	<p>テーマ「子どもたちにとって意味のある学校になるために」 ～学校だからこそできることを目指して～</p> <p>5月16日（土）13:45～15:45 朝日新聞の記事をもとに、今もつべき課題を共有する ゲスト：各務滋氏（朝日新聞論説委員）</p> <p>6月27日（土）13:45～15:45 黒柳徹子『窓際のトットちゃん』を読む</p> <p>8月29日（土）13:45～15:45 門脇厚司『大正自由教育が育てた力 「池袋児童の村小学校」と子どもたちの軌跡』を読む</p> <p>10月24日（土）13:45～15:45 今、考えるべき課題の整理をする 講師：桑嶋晋平氏（日本女子大学准教授）、その他の研究者</p>

	11月28日(土) 13:45~15:45 まとめ
場所	大和市シリウス及びオンライン (Zoom)
対象者	教員・一般・学生
収入予定金額	20,000円 (参加費 20,000円)
支出予定金額	30,524円 (賃借料 6,250円 諸謝金 22,274円 刷製本費 2,000円)

学校支援事業 ②授業研究会

事業概要	<p>2025年度に引き続き、若手教員の学校で直面する課題を語ってもらうことを出発点として、それらの課題が社会構造とどのように関係しているのかを検討することを通して、目の前の子どもたちと、どのように関わり授業を展開していくのかについて、議論を深めていきたいと考える。</p> <p>2026年度は、授業研究会の前に企画されている「インクルーシブな社会を目指す学習会」および「理論学習会」が、理論面に重点をおいていることから、授業研究会では「現場の状況を語る」ことから出発していきたい。</p>
事業目標	教室の実践を、社会構造との関係から捉えた上で、その構造が変革していくためには、目の前の子どもとどのように関わればよいかを検討していく。
担当者	●活動代表(理事) 清水睦美
開催日時	<p>① 3月30日(月) 16:15~18:15 卒業論文検討</p> <p>○「公立小学校の資源配分の違いと力のある学校の運営の検討 —包摂の観点を組み込む—」</p> <p>○「親の離婚を経験した子どもの意見表明の実態 —家父長制と性別役割分業の観点から—」</p> <p>以下の日程では現場からの報告をもとに検討する。</p> <p>② 5月16日(土) 16:15~18:15</p> <p>③ 6月27日(土) 16:15~18:15</p> <p>④ 8月29日(土) 16:15~18:15</p> <p>⑤ 10月24日(土) 16:15~18:15</p> <p>⑥ 11月28日(土) 16:15~18:15</p>
場所	大和市シリウス
対象者	教員ほか教育関係者
収入予定金額	15,000円 (参加費 15,000円)
支出予定金額	10,000円 (賃借料 6,000円 消耗品費 4,000円)

学校支援事業 ③スタディツアー

事業概要	<p>2025年度は、川崎市子ども夢パーク・フリースペースえんを訪問、学校や家庭・地域の中に居場所を見出せない子どもたちが、元気に活動する姿が見られた。</p> <p>今年度は、NPO 法人パノラマが県立大和東高等学校内で運営する、「BORDER CAFE」を訪問する。「BORDER CAFE」は、ひきこもりのきっかけとなる高校中退や進路未決定を予防し、所属を失ってしまった、その瞬間から支援を実現するために、校内居場所カフェとして開設されている。昨年度から引き続き、様々な目的、立ち位置で子どもたちをサポートする現場を訪問することで、子どもたちとのつながりを作り、途切れさせない関わり方を考える機会とする。</p>
事業目標	今日の教育課題や社会状況の現場を実際に訪れることで、日常の課題を広い視野から考えることができるようにする。
担当者	●活動代表（理事）池田喬
開催日時	2026年8月
場所	「BORDER CAFE」（県立大和東高等学校内）
対象者	教員・一般・学生
収入予定金額	10,000円（参加費10,000円）
支出予定金額	10,000円（雑費10,000円）

学校支援事業 ④外国人の子ども理解のための学習会

事業概要	<p>① 学習会</p> <p>大和市には、数多くの外国にルーツのある子どもたちが暮らしている。しかし、来日経緯や家庭の状況、普段子どもたちがおかれている環境を知る機会が極めて少ない。そこで、学習ボランティア希望者や、学校教員、一般市民を対象に外国人の子どもたちが置かれている状況や課題を理解し、様々な教育現場での支援に役立てていくために、学習会を開催していく。</p> <p>4月の「役割分担の再検討—ジェンダー・ルーツ・当事者性をめぐる日常の対話—」では、4月の学級開き・国際教室開きが進められる中で多忙な中でつい「例年通り」進めてしまう役割分担。しかし、話し合いを欠いた「あてはめ」は、ジェンダーによる固定観念を強めたり、外国にルーツのある子が入り込む隙間を奪ったりと、目に見えない「境界線」を教室の中に引いてしまう。本学習会では、子どもたちが自ら「目標」を考え、役割を超えて語り合える場をどう作るかを検討していく。</p> <p>8月の「『語っても大丈夫』と思える教室—アウティング事例から学ぶ、対話が生まれる瞬間のつくり方—」では、SNSや政治的発信での誹謗中傷や、</p>
------	--

	<p>無自覚な排除が広がりやすい今、学校は子どもの「生きづらさ」をどれだけ自分自身の課題として捉えてくれるのか。外国にルーツのある子どもや、多様な背景を持つ子どもたちに、自分の経験を言葉にするためのエネルギーを生み出す、安心して語り出せる「教室のムード」を様々なアウトティング事例から考えていく。</p> <p>② 事例研究会</p> <p>外国人の子どもたちの具体的な事例を通して、かれらの背景にある様々な事情や問題を読み解く力をつけていくことを目指して、学習会の開催がない月に開催する。</p> <p>外国人の子どもたちの支援には、学校の先生はもちろんであるが、地域の支援者が欠かせない存在である。そこで、今年度は、学校の先生のみならず、地域で外国人の子どもたちを支援している方々にも参加してもらい、学校と地域で支援の在り方を考える研究会としたい。今年度は、学習会と事例研究会の二本立てで行っていく。学習会では、講師の先生による講義と参加者による協議を通して、外国人を支援する際に必要とされる知識を学んでいく。事例研究では、事例を参加者に提供してもらい、事例についての協議を通して支援に関する知識を深めていく。</p>
事業目標	外国人の子どもたちの現状や課題を理解する場、外国人の子どもに対する専門的な知識を学ぶ場を企画運営する。
担当者	<p>●活動代表（理事）西岡歩</p> <p>○スタッフ 篠原弘美</p>
開催日時	<p>① 学習会</p> <p>4月30日（木）19：00～21：00 内容：「役割分担の再検討 —ジェンダー・ルーツ・当事者性をめぐる日常の対話—」 講師：清水睦美氏（日本女子大学教授）</p> <p>8月4日（火）13：30～16：00 内容：「『語っても大丈夫』と思える教室へ —アウトティング事例から学ぶ、対話が生まれる瞬間のつくり方—」 講師：清水睦美氏（日本女子大学教授）</p> <p>② 事例研究会</p> <p>3月21日（土）大学院生論文報告会</p> <p>5月14日（木）学習会：「外国人支援の基礎・基本」</p> <p>6月18日（木）事例研究①</p> <p>7月23日（木）学習会：「複数言語環境」</p> <p>9月17日（木）事例研究②</p> <p>10月29日（木）学習会：「支援の平等・公平・公正を考える」</p>

	11月19日(木)事例研究③ 学習会講師：清水睦美氏(日本女子大学教授) 時間：3月は15:30~17:30 他は19:00~21:00
場所	① 大和市シリウス及びオンライン(Zoom) ② オンライン(Zoom)
対象者	教員・一般・学生
収入予定金額	85,000円(参加費30,000円 受取寄付金55,000円)
支出予定金額	63,185円(賃借料5,500円 諸謝金55,685円 消耗品費2,000円)

学校支援事業 ⑤インクルーシブな社会を目指す学習会

事業概要	インクルーシブな社会を目指すことの理論が広まっているように見えて、現実には個人に責任が求められて、学校や社会ではより深刻な排除が進んでいる現実をしっかりと分析し、すべての子どもたちが、生活する学校や社会においてインクルーシブな社会が実現されることを目指す。
事業目標	インクルーシブな社会はその理念が叫ばれながらも、いまだ現実は程遠いものがあることを昨年度の学習会で目の当たりにした。インクルーシブの考え方は、社会の在り方の根源に関わる問題であり、私たち Ed.ベンチャーとしても、大事なテーマの一つであると考えている。インクルーシブな社会を目指しているはずが、現実には個人に責任が求められて、学校や社会ではより深刻な排除が進んでいる現実があることを、事例をもとに理解を深め、具体的に何ができるかを考えていきたい。
担当者	●活動代表(理事) 山口貴子 森尾宙 ○スタッフ 柿本隆夫 篠原弘美
開催日時	① 5月16日(土)10:00~12:00 「参加者それぞれの現場から、インクルーシブな社会に向かわない現実や葛藤を報告しあい、課題を整理する。」 ② 6月27日(土)10:00~12:00 ③ 8月29日(土)10:00~12:00 課題について『社会を扱う新たなモード』(飯野由里子・星加良司・西倉実季著)を参考に「障害の社会モデルと個人モデルについての視点から、事例をもとに、インクルーシブな社会の実現を阻む現実を変えていくために、具体的にできることを考えていく」を検討する。
場所	大和市シリウス
対象者	教員・一般・学生
収入予定金額	20,000円(参加費15,000円 受取寄付金5,000円)
支出予定金額	4,800円(賃借料4,800円)

外国人支援事業

⑥ 子どもの居場所・学習支援教室(エステレージャハッピー教室)

事業概要	<p>外国にルーツのある子どもは学習上の困難を抱えていることが多いので、丁寧な説明を加えながら、学習内容の理解を深めていくことで、学校における学習に主体的に取り組むことができるように、それぞれの子どもに寄り添った形での学習支援を行う。</p> <p>上記の支援を行う中で、子どもたちが自らの経験を自由に語ることができる場所を作り、当教室が彼らの居場所となることを目指す。</p> <p>① 学習支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習や遊びを通して子ども同士の対話を促し、それぞれの関りが深まるように意識しながら支援する。 ・日本語指導が必要な児童生徒には日本語指導を行う。 ・小学生に対しては、学校の宿題を中心とした学習指導を行う。 ・中学生に対しては、学校の授業内容の理解を深めることを意識して学習指導を行い、さらに定期テストや高校受験の支援も行う。 ・小中学生共に進路を考える上で、教室の先輩から進路に関する経験やアドバイスを聞けるような機会を設ける。 <p>② 語り合いの場づくり</p> <p>普段の学習支援をする中で、自分のアイデンティティや学校での経験など抱えている問題を語ることができ、共有できる場となるようにする。そしてその中で子どもたちから出された要望に対応していく。</p> <p>③ 保護者対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に面談期間を設け、教室での子どもの様子を伝えるとともに、家庭や学校での様子を聞き、困りごとがあれば相談に乗る。 ・要望に応じて、保護者に対する日本語及び通訳などの支援を行う。 <p>④ スタッフの育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタッフミーティングを開催して、子どもたちの様子や問題点の検討、今後の計画などを話し合うことでスタッフの育成を図る。 ・さらにスタッフを増員すべく募集活動を行う。 <p>⑤ 教室運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登録制（登録料として1か月100円を徴収） ・3学期制（1学期4～8月、2学期9～12月、3学期1～3月）
事業目標	<p>外国にルーツがある子どもの居場所作りと学習支援を行う。さらに家庭や学校の様子を聞いて可能な範囲で支援を行い、問題の解決を図る。</p>
担当者	<p>●活動代表（理事）福島聖子</p> <p>○スタッフ 角替弘規 篠原弘美 保坂克洋 根岸佐織 高島ヒトミ 佐藤ひより ジュマイマ・ルース・アゴコプラ 河村優花 島菜月 川上ひなの イ・チャンジョン</p>

開催日時	① 毎週土曜日 10:30~12:30 定期テスト・受験対策支援 適宜開催 ② 毎週土曜日 10:30~12:30 ③ 面談:4月、8月、12月 保護者対応は適宜実施 ④ 毎週土曜日 毎回教室開催の終了後
場所	大和市立林間小学校 大和市シリウス 大和市ベテルギウス 大和市ポラリス 部室
対象者	大和市及び近隣在住の外国ルーツの小学生・中学生など
収入予定金額	262,000円 (県中央労福協共済金 250,000円 参加費 12,000円)
支出予定金額	286,829円 (賃借料 70,800円 諸謝金 147,004円 旅費交通費 17,640円 印刷製本費 2,000円 消耗品費 30,000円 保険料 19,385円)

子ども支援事業 (該当事業なし)

学校・外国人・子ども支援に関する普及啓発事業

⑦教育相談

事業概要	学校・教師・行政・子ども・保護者・外国人当事者・支援団体等の各種相談に応じることを目的とし、今年度は以下を行うこととする。 ① (2019年より継続)「すたんどばいみー基金」から移管された当事者相談事業:4名(S、E、R、H) ② 多言語若手通訳派遣事業 A 通訳登録(6名予定) B 通訳派遣(Aの登録者の派遣) ③ 2025年度に開始された相談の継続 ・当事者T:大学院生 ・当事者O:高校生 ④ 必要に応じて新規相談を受け付ける。
事業目標	相談事業を通して、ニーズの把握と必要な事業の展開の仕方を検討する。
担当者	●活動代表(理事)松永雅文 林幹也 ○スタッフ 清水睦美 篠原弘美
開催日時	① 該当者4名(S、E、R、H)に対して随時 ② 随時必要に応じて行う。また、必要に応じて研修機会を設ける。 ③ T:月1回の面談、O:受験に向けての支援 ④ 必要に応じて随時

場所	①～④ 必要に応じて適宜設定
対象者	相談者
収入予定金額	0円
支出予定金額	60,112円（諸謝金 50,112円 雑費 10,000円）

学校・外国人・子ども支援に関する普及啓発事業

⑧ 普及啓発活動

事業概要	<p>学校支援、外国人支援、子ども支援の必要性を広く市民に呼び掛けるとともに、当法人の活動理念と活動を知ってもらうための活動を以下の8部門に分けて展開する。</p> <p>① 広報誌「Ed.ベンだより」の作成と配布 ② ホームページの更新・管理・運営 ③ 2026年度版パンフレットの作成と配布 ④ 現在の社会情勢に鑑みた特定のテーマ（a. 脱・原発 b. 女性 c. 平和）に関する情報発信 ⑤ 資料・書籍の管理販売 ⑥ 他機関・他団体との関係構築 ⑦ 渉外（研究者対応を含む） ⑧ 会員に対する情報提供</p>
事業目標	<p>社会に対して当法人の理念と活動を紹介しながらその位置づけを明確にし、社会的に弱い立場に置かれた人々に対する支援の重要性を普及・啓発する。</p>
担当者	<p>●活動代表（理事）角替弘規 ○スタッフ 池田喬 清水睦美 柿本隆夫</p>
開催日時	<p>① Ed. ベンだより発行：2・4・6・8・10・12・1月（年7回）（1月発行号は教育講演会特集とする） ② ホームページ公開（随時更新）（理事推薦本のテーマを「原発・女性・平和」とする） ③ 2026年度版パンフレット配布：4月上旬 ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧は随時</p>
場所	当法人事務所またはオンライン（Zoom）
対象者	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ 一般 ⑧ 会員
収入予定金額	45,000円（受取助成金 45,000円）
支出予定金額	290,815円（印刷製本費 68,000円 通信運搬費 161,815円 消耗品費 53,000円 業務委託費 8,000円）

学校・外国人・子ども支援に関する普及啓発事業

⑨ 教育講演会

事業概要	<p>今年度は、関西学院大学の桜井智恵子氏を講師に迎える。桜井氏が示す「反開発主義」についてお話しいただき、成果主義や能力主義が支配する現代社会に対して、自己責任や競争とは真逆の価値観を考える講演会とする。個別化が進む学びの中で、子どもたちが分断されている現在の学校教育のあり方を、参加者とともに問い直したい。</p> <p>また、今年度後半では、2027年度教育講演会に向けて、テーマや講師の検討などを行う検討会を開催する。</p>
事業目標	現在の社会状況を踏まえて、参加者に問題提起し、互いに議論する教育講演会を企画・運営する。
担当者	<p>●活動代表（理事） 柿本隆夫</p> <p>○スタッフ 池田喬</p>
開催日時	<p>① 教育講演会</p> <p>2026年2月15日（日）13:30～17:00</p> <p>「現在の学校教育のあり方を問う —私たちは『自発的隷従』から逃れられるのか—」</p> <p>講師 桜井智恵子氏（関西学院大学人間福祉研究科教員）</p> <p>② 検討会</p> <p>2027年度教育講演会に向けての検討会</p> <p>2026年夏以降、計4回を予定</p>
場所	<p>① 教育講演会 富士見文化会館 101号室</p> <p>② 検討会 オンライン（Zoom）</p>
対象者	教員・一般・学生
収入予定金額	75,000円（参加費 35,000円、受取寄付金 40,000円）
支出予定金額	123,540円（賃借料 21,670円 諸謝金 33,411円 印刷製本費 22,850円 消耗品費 6,000円、旅費交通費 39,609円）

⑩ 法人の事業円滑実施のための活動

事業概要	法人の事業の円滑実施のために、次の3部門の活動を行う。 ① 総会（1回）・活動報告会（6回）・事務局会議（6回） ② 会計（会計処理：12回 会計確認：3回 オンライン参加費請求：1回） ③ 外部からの依頼に対応
担当者	●活動代表（理事）篠原弘美 橘川真知子 ○スタッフ 内藤順子 松永雅文 清水睦美 角替弘規 池田喬 柿本隆夫 （会計）清水睦美 篠原弘美 小西永里子
開催日時	① 総会：2026年2月15日（日）10：30～11：30 活動報告会：原則奇数月、会計年度末臨時 事務局会議：原則偶数月 ② 会計処理：原則月1回 会計確認（締め）：年3回（1月 8月 11月） ③ 随時
場所	当法人事務所 部室 オンライン（Zoom）
対象者	法人内会員
収入予定金額	538,000円（受取会費526,000円 雑収益12,000円）
支出予定	304,206円（通信運搬費101,640円 消耗品費2,000円 水道光熱費58,176円 租税公課18,900円 保険料4,490円 諸会費5,000円 雑費114,000円）